

回覧2月の園だより

令和8年1月30日(金) 羽茂こども園 副園長 吉田 歩

寒波が訪れ、一面雪景色となり、園庭や中庭で雪遊びを思い切り楽しむ子ども達の姿がとても印象的でした。0歳児から5歳児まで寒さを体感しながらも夢中になって遊び続ける姿に、自然が子どもに与える影響のすごさを感じました。四季の豊かさを感じることができる佐渡の自然の中で、充実した保育をこれからも続けていきたいと思ひます。

幸い、感染症等も流行せず、子ども達が元気に過ごせていることを嬉しく思ひます。今後も室内外問わず遊びの充実を図り、十分に体を動かし、健康的な生活を心掛けていきます。

2月の行事予定

日	曜日	予定	対象クラス
3日	火	節分会 / 行事食	全園児 / 全園児
4日	水	新入学児童入学説明会	とき組
6日	金	体操教室	とき組
11日	水	建国記念の日	
13日	金	保育参観・保護者会総会	全園児
20日	金	誕生日給食 / 入園説明会(令和8年度入園園児家庭対象)	全園児 /
26日	木	おこしがた作り	とき・かわせみ組
27日	金	布団の手入れ	全園児(とき組を除く)
28日	土	第3回環境整備作業(保護者会)	

※避難訓練も行います。

3月の

主な行事予定



- ・3日(火) ひなまつり会
- ・19日(木) 卒園式
- ・28日(土)～4月4日(土) 1号認定児学年末休業

新しい友だちを紹介します

〇2月より入園します。
ひよこ組
なかま かえで さん
よろしくおひいします。



26日に予定しているおこしがた作りでは、健康推進委員さんを迎え、地域食のおこしがたを作ります。今月行ったおにまん作りに続いて、継続的に“地域とつながる”ということに感謝し、地域の文化に触れる機会を楽しみたいと思ひます。

2月うまれの友だちを紹介します



☆ときぐみ(6さい)
たなた さら さん
☆つばめぐみ(3さい)
よこのみ さくら さん

☆かわせみぐみ(5さい)
かとう まお さん
☆あひるぐみ(2さい)
えびな ななみ さん

おたんじょうび
おめでとう!



お正月といえは



新しい年を迎え、新年のあいさつを交わし、園として行ったのは、もちつきでした。蒸したもち米のめつぶしから鏡餅作りまで、JA 佐渡羽茂支店の渡辺さんや女性部の高野さんの協力もあり、和やかな雰囲気の中で日本の伝統的行事を楽しむことができました。

もちが少し柔らかめだったため、鏡餅を作るためにもちを丸めようとした時に、手にもちがくっついてしまったのですが、その感触をも楽しむ子ども達でした。手についたもちをなかなか落とせないときに、お湯につけるとはがれやすくなることを知るなど、体験する中で学ぶことがたくさんあったように思ひます。

今回は偶然のことでしたが、成功する体験だけではなく、失敗も含めた体験を積み重ねていくことで、子ども達はよりしなやかにたくましく成長していけるのだと考えます。

段々と経験できる機会が損なわれてきている日本の伝統的な文化にあえて手を伸ばしていき、人として豊かな生活を築いていきたいです。



杵や臼を借りようと羽茂支所で相談した際、まるで自分たちが行ふかのようにわくわくした様子で相談に乗ってくれる職員の方々の温かさに触れました。子ども達が豊かな経験を積み重ねていけるのは、心温かい地域の皆さまの協力があったこそだと改めて感じました。保護者の皆さまをはじめ、地域全体で子ども達を守り、一緒に楽しんでいけるような保育を考えていきたいと思ひます。今後ともご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



年始から子ども達の中で流行しているこま回しですが、年長児の子ども達の腕前は日に日に上達しています。大人も敵わないほど長く回すほどの子もいます。嬉しく思ったのは、長くこまを回すその子の背景には、祖父の存在があり、回せるようになるまで祖父からこま回しを習ったというのです。家庭内でもメディアの存在が大きくなっている現代で、こま回しという昔ながらの遊びが世代を越えてつながりを生み、楽しめるというところはとても興味深いと感じました。昔から今まで親しまれている遊びということは、それほど魅力があるということです。

こま回しの他にもお手玉、あやとりなど、魅力的な遊びはたくさんあります。こういった遊びも私たち大人が伝承していくことで、その遊びの楽しさ、面白さが受け継がれていくように思ひます。保育のヒントをもらったように感じています。



裏面に、園長「はもちのほいく」があります。こちらも含わせてご覧ください。



子ども達が待ちに待った雪で、辺り一面が白く覆い尽くされた新年。気温が低い日が続く、テラスにおいたバケツの水が凍ったり、つららができていたり、雪だけではなく氷を使った遊びも楽しむ子ども達です。

全国的には大雪のため被害が出ている地域もあり、楽しいばかりの雪ではありませんが、子ども達が雪や氷を全身で感じ、受け止め、不思議さに気づく、この時期にしか味わえない経験を満喫できることを、何より嬉しく思います。

暗く寒く長い冬も違う角度からみたら、子どもにとっての学びの宝庫です。四季の移り変わりをしっかりと感じる、自然豊かなこの佐渡で暮らしている子ども達は、きっと心豊かに育つのだろうと、歓声をあげながら遊ぶ子どもの姿を見ながら思う1年のスタートです。

保育補助者研修を終えて思うこと

羽茂こども園には、担任している保育教諭以外に、早朝・延長の時間を担当する保育補助の職員や、担任の不在時にクラスに入っていていただく代替職員がいます。職員の出勤前や退勤後の保育をお願いしたり、急な休みに対応してもらったり…。私たち職員が安心して保育に携われるのも、この方たちがいるからこそであり、羽茂こども園にとって、とても大きな存在です。



子ども達の朝の身支度に寄り添う早朝職員。子ども達が安心して一日のスタートを切ることができます。

先日、保育補助者・代替職員を対象に園内研修を行いました。きっかけは「保育補助の先生たちとも、理念や方針を共有したい」という私たちの思いからです。「はもちのほいく」の中でもお伝えしているように、私たち職員は折に触れて園内研修を開き、理念や教育・保育方針を共有し保育を進めていますが、保育補助者・代替職員対象の研修会は今まで開いたことがありませんでした。一番大切な理念や教育・保育方針を、羽茂こども園に関わる大人全員で共有し、同じ方向を向いて子どもに携わりたい、そんな思いで、この園内研修を開いた、というわけです。

園内研修では、私から、園の理念などに加えて、羽茂こども園の職員がどのような心持ちで子ども達と向き合っているかなどのお話をしました。その後、グループに分かれ、日々の保育の中で思うことを自由に話してもらいました。

グループトークでの意見・相談

代替職員A：時々しか来ないけれど、園に来るといつも温かい気持ちになります。先生たちの子ども達への言葉かけや接し方を見ていると心が温かくなって。園に来ることがとても楽しみです。

代替職員B：子ども達同士のケンカの時にどう声を掛けたいか迷ってしまっ。つい「やめよう」と言ってしまうけど、それでいいのか…。

保育補助C：子ども達が棚の上などに乗ってしまっ、「降りようね」と伝えてもなかなか降りてもらえない時、どのような対応をするといいのか迷います。

このようにグループトークではさまざま意見や相談で盛り上がり、この研修会に参加した副園長・数名の保育教諭・私と共に、活発な意見交換ができました。

また、研修後に提出してもらったレポートの中には、研修を受けた率直な思いが綴られていました。

研修を受けての感想

代替職員D：以前から先生方は叱らないなと思っていましたが、私も否定する言葉は使わず、子ども達に納得してもらえる言葉掛けをしたいと思いました。また、子ども達がケンカをしたりすると今までは必ず仲裁に入っていましたが、入るクラスやケンカの程度でも、どう介入するかも大事ななと思いました。改めて観察する目を忘れないでいたいと思います。

保育補助E：保育の先輩たちの動きに意味があることを改めて感じました。今後も全体を見渡せるようにしたいと思います。

上記2人の感想を読み、純粋にすごいと感じました。子どもを観察するということは、実は子どもの思いに近づく一番の近道です。今回の研修を受けて子どもの心に近づきたいと思い、どのように自分が保育に向き合っていくかを改めて考えた言葉だと思います。

また、次のような意見もありました。

代替職員F：他園で保育の手伝いをしている方もおり、こども園の教育・保育に対して戸惑いもあるようでしたが、今回の研修で理解することができたと思います。研修後「いい学びができた」との声が出ていました。

改めて職員の子どもの声掛けや対応の優しさで、子どもが心を開き、安心した中で成長していく、そのすごさを感じました。職員みなさんの努力・研修の成果ですね。頭が下がります。

代替職員G：園の理念・教育・保育方針を聞くことができてよかったです。また、「心にとめておきましよう4か条」が園長先生と先生方で話し合い決めたということ、そしていつでも目に留めることができる場所に貼ってあるということに感心しました。

私たち職員が、日々どのような心持ちで保育や子ども達に向き合っているかを、研修を通して知ってもらえたことを嬉しく思いました。

また、研修後、ふとした子どもに対する自分の行動を「あっ」と立ち止まって考える保育補助者の姿を見て、子どもに携わる大人全員が、羽茂こども園の保育の方向性を理解し、同じ方向を向いて進んでいけると実感しました。

今回の研修を通して、改めて羽茂こども園の保育も私たち職員も保育補助・代替職員みなさんに支えられていることを強く感じています。

レポートの中に

“一人の人間であることを意識する” 子どもだからではなく、対等な立場で対応する。今後は子どもの気持ちを考え、寄り添って保育をしていきたいです”

と書いた保育補助のこの思いを、私たち職員も常に心に留め、羽茂こども園に携わるみんなで協力しながら、子ども達と健やかな成長を願い、これからも前に進んでいきます。



子ども達のやりたいことに満足いくまで寄り添っています。子どもの心も満たされます。